第18回全国障害者スポーツ大会

市内出場者５人が全国大会で入賞

10月13日から15日に福井県で開催された「第18回全国障害者スポーツ大会」に、福島県代表として出場した二本松市の選手のうち、入賞した５人がその報告のため市役所を訪れました。入賞したのは、本多美幸さん（渋川・フライングディスク ディスタンス１位）のほか、尾形カツ子さん（木幡）、高野淳子さん（郭内）、笹嶋浩信さん（木ノ崎）、渡辺俊明さん（宮本）でした。選手の皆さんは、既に来年の大会へ向け目標を設定していました。

左から渡辺さん、笹嶋さん、三保市長、尾形さん、福島県選手団団長の伊藤清次さん、本多さん、高野さん

第27回「戒石銘顕彰」に関する作文コンクール表彰式

戒石銘の教えを胸に刻み、立派な人間でありたい

市内の中学２年生を対象に募った「戒石銘顕彰」に関する作文コンクールの表彰式が11月14日、市役所で行われました。表彰式では、最優秀賞に選ばれた佐々木篤真（とくま）さん（二本松一中）、優秀賞に選ばれた武内七海（ななみ）さん（二本松一中）、塩谷莉紗（りさ）さん（二本松二中）、佐藤彩乃（あやの）さん（安達中）がそれぞれ賞状を受賞後、受賞作文を朗読しました。霞ヶ城公園には、寛延２（1749）年に綱紀粛正（こうきしゅくせい）の指針として刻銘された国指定の史跡「旧二本松藩戒石銘碑」があり、その精神は今なお市民の心に深く刻まれています。

左から、齋藤副市長、佐藤さん、塩谷さん、武内さん、佐々木さん、丹野教育長

二本松の提灯祭り

2019年から10月第１週の土～月曜日に日程変更

二本松神社の安藤豊宮司と二本松神社責任役員の熊耳宏吉総代会長、渡邊守康総代副会長の３人は、11月15日に市役所で記者会見を開き、2019年から「二本松の提灯祭り」の日程を、10月第１週目の土曜・日曜・月曜に変更することを発表しました。二本松の提灯祭りは当初、旧暦の８月14日からの３日間で行われていましたが、大正７（1918）年から、10月４日、５日、６日に行われてきました。会見には、提灯祭り実行委員会会長の三保市長も同席しました。

記者会見をする、左から渡邊総代副会長、熊耳総代会長、安藤宮司

ふくしまワイナリーフェスティバル

県内外６地域自慢のワインを飲み比べ

11月25日、市民交流センターを会場に「ふくしまワイナリーフェスティバル」が開催されました。今年で２回目となるこの企画には、東和地域にある「ふくしま農家の夢ワイン」をはじめ、県内外から６つの日本ワイン（地元で採れたブドウを地元で醸造したワイン）醸造元が集まり、訪れた市民らは、歌や料理を楽しみながら、各地域のワインを飲み比べていました。

大勢の市民らで賑わったフェスティバル会場内

模擬投票をする松工の生徒たち

未来の福島県知事選挙

二本松工業高校で模擬選挙が実施される

高校在学中に有権者となる県内の高校生を対象に、選挙に関する模擬体験の機会を設け、政治や選挙に関する関心を深めてもらおうと、11月27日に二本松工業高等学校で「未来の福島県知事選挙」と題した模擬選挙が行われました。投票に先立ち、生徒たちは事前に候補者の政見資料を見ながら意見をまとめ、投票日当日は、約50分間の政見放送を視聴した後、真剣な面持ちで投票に臨んでいました。

左から３番目が本多叶夢くん

2018年 第12回「いつもありがとう」作文コンクール

本多叶夢くん(杉田小２年)が優秀賞を獲得

朝日学生新聞社主催の第12回「いつもありがとう」作文コンクールにおいて、杉田小学校２年の本多叶夢(かのん)くんの書いた作文が優秀賞を受賞し、11月28日、報告のため市役所を訪れました。同コンクールは、普段言葉にできない家族などへの感謝の気持ちを作文にして応募するもので、叶夢くんは「ぼくのおとうと」と題して、幼稚園に通う弟・徠翔(らいと)くんとの関係を作文にしました。同コンクールには、全国の小学生から38,086点の応募がありました。

協定書に署名後、各団体代表の方々による集合写真

空家等の有効活用等に関する相談業務協定締結

市と４団体が空家等有効活用で協定締結

11月30日、市役所で空家等の有効活用等に関する相談業務協定締結式が行われました。今回市と協定を結んだのは、(公社)福島県宅地建物取引業協会、(公社)全日本不動産協会福島県本部、福島県土地家屋調査士会、福島県建築士会安達支部の４団体。市民などから寄せられた空家の有効活用等に関する相談に対し、協力してこの相談に応じ、空家の適正管理と有効活用等の促進を図るのが目的となります。

国指定重要無形民俗文化財『木幡の幡祭り』

初冬の青空にはためく五色の五反幡

12月２日、東和地域の師走の風物詩である『木幡の幡祭り』が開催されました。木幡地区の９つの堂社(集落)の幡持ちが、白装束に烏帽子姿で、大小約100本の幡を掲げ、木幡山にある隠津島神社までの８キロメートルほどの道のりを練り歩きました。朝の寒さが厳しい日でしたが、時間が経つにつれ暖かくなり、快晴の下、五反幡が色鮮やかに里山の空を彩りました。沿道にはたくさんのカメラマンが駆け付け、ベストショットを逃すまいとカメラを構えていました。

平成30年度 県外在住功労者知事表彰式

二本松市ゆかりの菅野和夫さん(東京都)が受賞

12月３日、福島県知事公館で今年度の県外在住功労者知事表彰式が行われ、二本松市ゆかりの菅野和夫さんが表彰されました。菅野さんは東京生まれですが、昭和19年・１歳のときに、父の古里である二本松市へ疎開し、高校を卒業するまで二本松で過ごしました。その後、東大法学部在学中に司法試験に合格するも学者の道を選び、戦後に本格的な研究が始まった労働法学を法律学として確立させ、2014年には、天皇・皇后両陛下がさまざまな学問の第一人者から講義を受けられる「講書始の儀」で講義もされました。現在は東大の名誉教授をされています。

内堀知事から表彰を受ける菅野さん(写真右)

第60回 全国牛削蹄競技大会

武藤稔貴さん(木幡)が総合３位入賞

11月８日に茨城県で開催された全国牛削蹄競技大会において、武藤稔貴さんが総合３位になり、その報告のため、12月６日に市役所を訪れました。牛の蹄を切る精度などを競うこの競技で、稔貴さんは２年前に全国優勝を果たしています。削蹄競技が始まると、稔貴さんの周りはたくさんの見物人で溢れ、相当なプレッシャーの中での競技となりましたが、過去に自分が優勝したということを全て忘れて競技に挑んだそうです。

中央が稔貴さんで、左は父であり師匠でもある武藤靖雄さん

中村雅俊コンサートツアー2018「ON and ON」Vol.2

満席となった会場内は、熱気で埋め尽くされる

12月９日二本松市民会館にて、俳優で歌手の中村雅俊さんによるコンサートが行われました。前売券が即日完売となったこのコンサートには、その歌声を聞こうと市内外から多くのお客さまが来場し観客席を埋め尽くしました。『ふれあい』などの代表作をはじめ、アンコールも含めて全26曲が披露され、お客さまはスタンディングオベーションでその歌声に聞き入っていました。

ステージ上で熱唱する中村雅俊さん

朝河貫一博士没後70年顕彰事業　朝河貫一博士顕彰講演会

朝河博士に続け！世界に羽ばたく若者たちへ

12月15日二本松市コンサートホールにて、朝河貫一博士顕彰講演会が開催されました。「市民の翼」に参加した中学生10人による参加報告会の後、政策研究大学院大学名誉教授で、二本松未来戦略会議委員の黒川清さんによる講演が行われました。黒川さんは、朝河博士の縁で行われている「市民の翼」事業は、二本松市の貴重な資産であると訴え、積極的に知りたいことを自ら調べ、体験し、世界から日本を見る目を培い、日本の未来を担ってほしいと会場を訪れていた中高生にエールを送りました。

報告を行う中学生(写真下)と講演を行う黒川清さん(写真左上)

平成30年度 福島県技能者表彰受賞者発表

安齋征治さん(小浜)が「県の名工」に選ばれました

ものづくりで県内最高水準の技を持つ匠(たくみ)をたたえる、2018(平成30)年度の県技能者表彰受賞者『県の名工』12人が発表され、市内小浜地区で木製家具建具製造工として安斎木工所を営む安齋征治(せいじ)さんが選ばれました。安齋さんは特注家具・仏具の製作を手掛けており、特に高い技術を要するR型(曲線加工)家具等を積極的に受注・製作しています。

安齋さんが手掛けるR型製品は他に類を見ず、優れた技能を有するため、浅草東本願寺をはじめ、寺社や温泉施設からの受注を得るなど、各方面から高い評価を受けています。安齋さんは現在、特注家具などの技巧性の高い分野を専門に扱う職人を育てるため、自社である安斎木工所で若い職人さんたちにその技術を伝授しています。

1_普段の表情と打って変わり、鋭いまなざしで作業をする安齋さん　2_昭和63年に安齋さんが実用新案を取得した、碁盤・将棋盤の足の部分(=ホオズキ足)の製作が簡単に、しかも名人級の仕上がりでできる工作機械。名付けて『今日から名人』。それまでホオズキ足を製作するには、非常に手間と時間がかかっていたが、この工作機械の発明により、作業時間が大幅に短縮された　3_『今日から名人』で製作したホオズキ足　4_賞状を手にする安齋さん

左から鹿糠さんと三保市長

第64回福島県発明展

鹿糠国光さん(郭内)の作品が県知事賞を受賞

11月19日、第64回福島県発明展(一般の部)で県知事賞を受賞した鹿糠国光(かぬかくにみつ)さんが、その報告のため市役所を訪れました。鹿糠さんが発明した「温度見張り番」は、あらかじめ設定した温度と少しでも差が生じると警報音が鳴るもので、温度を感知する装置と警報音を鳴らす受信装置が分離しているのが特徴で、火災発生時などにいち早く初期消火等の対応が可能となります。ニュースで火災による痛ましい報道を見ていて、何とかして助けられないかと思い考えた作品だそうです。

作品名　**温度見張り番**

発明考案の動機

火災時には火災報知機が作動するが、「少しでも早く、そして必要と思われる所に置きたい」「作動したときの知らせ音装置も、自分のそばに置いて夜でも聞き逃しのないようにしたい」という思いから考案した。『温度見張り番』は移動できるので、その場の温度異常を一刻も早く知りたいときに機能を発揮します。

特徴と効果

警告音を作動する温度設定は、自分で自由に変えることができる。また受信機はワイヤレスとなっているため、どこでも自由に置くことができる。テスト機能も完備しており、温度感知装置・受信装置とも全て動作確認ができます。感知装置は100V電源で、受信装置は乾電池電源。温度設定も簡単にできます。